

この指導案は、「令和2年度学校体育必携」の6～9ページに掲載しているものです。
 「令和2年度学校体育必携」には、体育科教育、健康・安全教育に関する課題等、学校体育に関する資料を数多く掲載しています。
 この機会にぜひご一読ください。

第3学年 体育科学習指導案

イ 指導計画例 ①

〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 〇校時
 〇〇市立〇〇小学校 体育館
 3年〇組 〇〇名
 指導者 〇〇 〇〇

1 領域 体づくり運動

2 題材名 「みんなで動きを工夫して、新しい動きにチャレンジしよう！」

3 単元の目標

- ・体のバランスをとる運動と用具を操作する運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりすることができるようにする。 (知識及び運動)
- ・体づくり運動について自己の課題を見付け、その課題を解決するための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・体づくり運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の目標

- ・学習指導要領の目標及び内容、学習指導要領解説等踏まえて作成する。
- ・運動領域は (知識及び技能) → (思考力、判断力、表現力等) → (学びに向かう力、人間性等) の順で表記する。
 ※体づくり運動は (知識及び運動) → (思考力、判断力、表現力等) → (学びに向かう力、人間性等)
- ・児童の実態や学習状況等を踏まえて作成する。
- ・文末は「～できるようにする。」と表記する。

4 指導について

教材観→一般的特性 (指導者から見た効果的特性)、児童から見た特性 (運動を学ぶ意義、系統性) 等を記述し、学習内容のとらえ方を明らかにする。

児童観→児童の日頃の体育に関する様子や、これまでの学習状況、本単元に関わる各観点の習熟状況、課題、事前アンケートの結果等を記述し、児童のレディネスを把握する。

指導観→指導者の領域や単元のとらえ方や、予定している学習過程、具体的な指導内容、工夫等を記述する。

4 指導について

「教材観」「児童観」「指導観」の順で記述するが、文章のまとまりとして3つの観点を読み取ることができれば、「教材観」「児童観」「指導観」をあえて項目立てしなくてもよい。

5 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| ① 体ほぐしの運動と、体のバランスをとる運動や用具を操作する運動の行い方について、発言したり記録したり <u>している。</u> | ① 体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動について自己の課題を見付けその課題を解決するために様々な運動の行い方を選んだり、友達と一緒に工夫したり <u>している。</u> | ① 体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動に自ら進んで <u>取り組もうとしている。</u> |
| ② 姿勢や方向、人数を変えて、回る、寝転ぶ、起きる、座る、立つ、渡るなどの動きやバランスを保つ動きで構成される運動を通して、体のバランスをとる動きが <u>できる。</u> | ② 楽しく運動をしながら心と体の変化に気付いたことや、友達と関わり合ったり、多様な動きを身に付けたりするための運動の行い方について、考えたことや見付けたことを友達に <u>伝えている。</u> | ② きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを <u>認めたりしようとしている。</u> |
| ③ 用具に乗るなどの動きで構成される運動を通して、巧みに用具を操作する動きが <u>できる。</u> | | ③ 場所や用具の安全に <u>気を付けている。</u> |

5 単元の評価規準について

- ・学習指導要領解説及び「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）の「学習評価に関する事例について」や「内容のまとめりごとの評価規準（例）」等を参考にする。
- ・評価規準の語尾は、「～できる」（技能）、「～している」（知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」）、「～しようとしている」（主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外）と表記する。
- ・「知識・技能」については、知識の評価規準と技能の評価規準に分けて設定する。
- ・「思考・判断・表現」については、「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定する。

6 2年間（第3・4学年）を見据えた学習計画

第3学年【全14時間】

| | | |
|-----|--|---|
| 第一次 | 第1時～第6時 | 第7時 |
| | ○体ほぐしの運動 ○多様な動きをつくる運動 (7) 体のバランスをとる運動 (ウ) 用具を操作する運動 | ○体ほぐしの運動 ○多様な動きをつくる運動 (オ) 基本的な動きを組み合わせる運動 |
| 第二次 | 第8時～第13時 | 第14時 |
| | ○体ほぐしの運動 ○多様な動きをつくる運動 (イ) 体を移動する運動 (I) 力試しの運動 | ○体ほぐしの運動 ○多様な動きをつくる運動 (オ) 基本的な動きを組み合わせる運動 |

第4学年【全10時間】

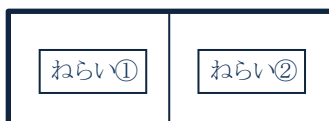
| | |
|-----|---|
| 第一次 | 第15時～第20時 |
| | ○体ほぐしの運動 ○多様な動きをつくる運動 (7) 体のバランスをとる運動 (ウ) 用具を操作する運動 (イ) 体を移動する運動 (I) 力試しの運動 |
| 第二次 | 第21時～第24時 |
| | ○多様な動きをつくる運動 (オ) 基本的な動きを組み合わせる運動（動きを選び、よりよい動きを工夫した運動） |

6. 2年間を見据えた学習計画について

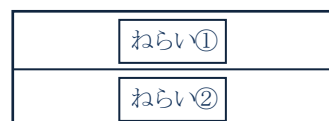
学校の実情に応じて、中学年のどちらか1年間で扱う場合と、2年間で扱う場合の計画例がある。学校体育実技指導資料集等を参考に作成する。

【指導計画の工夫の例】

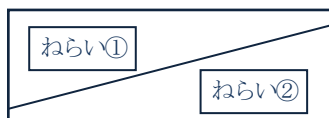
①ねらいをステージで分ける例



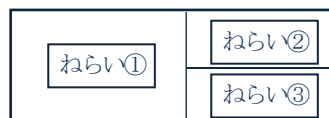
②ねらいを前後半で分け繰り返す例



③時間配分を変化させる例



④前半と後半で構造を変化させる例



7 指導と評価の計画 (全7時間)

| 時間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|------|--|--|---|--|--|---|------------------------------|
| 学習活動 | 1 集合、整列、挨拶、健康観察 | 2 準備運動 | | | | | |
| | 3 オリエンテーション | 3 体ほぐしの運動 ・「体のバランスをとる運動」につながるもの (新聞紙平均台、バランス崩し、背中合わせ立ち など) | | | | | |
| | 4 学習の計画を知る。 | ・「用具を操作する運動」につながるもの (ボールキャッチ、缶ぽっくりDEバランス など) | | | | | |
| | 5 準備運動 | 4 本時のめあての確認 | 4 本時のめあての確認 | 4 本時のめあての確認 | 4 本時のめあての確認 | 4 本時のめあての確認 | 4 本時のめあての確認 |
| | 6 体ほぐしの運動 (新聞紙バランス) | 5 主運動 ・体のバランスをとる運動 (バランスボード) | 5 主運動 ・体のバランスをとる運動 (バランスボード 何秒のれるかな?) | 5 主運動 ・体のバランスをとる運動 (バランスボード+ボール) | 5 主運動 ・体のバランスをとる運動 (バランスボード+ボール) | 5 主運動 ・用具を操作する運動 (竹馬+ラダー) | 5 主運動 ・用具を操作する運動 (竹馬で一本橋) |
| | 7 体のバランスをとる運動 & 用具を操作する運動 (綱渡り・平均台・ラダー・缶ぽっくり・ペアでボールパス) (バランスボード) | ・用具を操作する運動 (竹馬) | ・用具を操作する運動 (竹馬 どこまで行けるかな?) | ・用具を操作する運動 (竹馬+ラダー) | ・体のバランスをとる運動 (ペアと手をつないでバランスボード) | →自己の課題を見付け、その解決のために活動を工夫する。 | →自己の課題を見付け、その解決のために活動を工夫する。 |
| | 8 ふりかえり | 6 ふりかえり | 6 ふりかえり | 6 ふりかえり | 6 ふりかえり | 6 ふりかえり | 6 ふりかえり |
| | 9 整理運動 | 7 整理運動 | 7 整理運動 | 7 整理運動 | 7 整理運動 | 7 整理運動 | 7 整理運動 |
| | 評価の重点 | 知 | | | ① 観察 学習カード | | ③ 観察 学習カード |
| 思 | 各時間の主として評価する観点を表記する。主として評価する(できる)のは各時間に1~2つ。 | | ① 観察 学習カード | | ② 観察 学習カード | 指導計画のチェックポイント | |
| 態 | ① 観察 学習カード | ③ 観察 学習カード | ② 観察 学習カード | | | ①学習指導要領の趣旨やねらいを踏まえた授業展開となっているか。 ②目標、学習のねらいが明確になっているか。 ③目標に準拠した学習活動及び評価規準になっているか。 ④観点別に学習状況評価を行っているか。 ⑤発達の段階を踏まえた系統的な学習内容となっているか。 ⑥学習状況を的確に評価できる多様な評価方法を用いているか。 | |

評価の3つの局面

1. 診断的評価…児童の関心・意欲・態度・技能や知識等、特に指導すべき点を判断し、授業の計画を立てる。
2. 形成的評価…児童の変容を見取り、新たな課題提示や、指導の修正を行う。
3. 総括的評価…目標に対してどの程度まで達成できたかを見取る。←狭義の学習評価
「指導と評価の一体化」→学習評価を次の指導や支援に積極的に生かし授業改善を行う。

本時の目標（※「本時のめあて」ではないので注意）の文末は「～できるようにする。」と表記する。目標は3観点表記するが、それら全てを評価することは困難であるので、本時において主として評価を行う観点を明らかにする。
 主として評価を行う「本時の目標」と「単元の評価規準」、さらに本時の展開に表記される「本時のめあて」と「評価項目」の4点の整合が図られていること（同一の内容でリンクできていること）を確認する。

8 本時の展開（5／7時間目）

(1) 本時の目標

- ・姿勢や方向、人数を変えて、回る、寝転ぶ、起きる、座る、立つ、渡るなどの動きやバランスを保つ動きで構成される運動を通して、体のバランスをとる動きを身に付けることができるようにする。（知識及び運動）
- ・楽しく運動をしながら心と体の変化に気付いたことや、友達と関わり合ったり、多様な動きを身に付けたりするための運動の行い方について、考えたことや見付けたことを友達に伝えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ・きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたりすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

※本時では、思考・判断・表現を主として評価する。

(2) 展開

| 主なねらい・学習活動 | 教師の働きかけ（口評価） | 準備物 |
|---|---|---------------------------|
| 1 準備運動をする。 | ○各部位を意識しながら動かすように声をかける。 | ・ Bluetooth スピーカー及び楽曲 |
| 2 体ほぐしの運動をする。 ・背中合わせ立ち ・両足をつないで、せーの！立ち | 指導者の立場で表記する。 文末は「～確認する。」「～できるようにする。」「助言する。」「声をかける。」等 ※「～させる。」ではないので注意 | |
| 3 めあての確認をする。 | ○めあてをもって取り組むように声をかける。 | 本時のめあてを表記する。 |
| みんなで動きを工夫して、新しい動きにチャレンジしよう！ | | |
| 4 用具の準備をする。 | ○友達と協力しながら、安全に気を付けて準備をするように促す。 | ・ 掲示物 ・ 学習カード ・ シール |
| 5 体のバランスをとる運動をする。 『とんぼステージ』 ・ バランスボード+ボール ・ ペアと手をつないでバランスボード | ○安全に気をつけて活動するよう声をかける。 ○決められた場所で、友達のよい動きを見付けているか助言する。 ○グループの全員が意欲的に取り組むことができる運動の行い方や内容を考えるよう助言する。 | |
| 児童の立場で表記する。 文末は「～をする。」「～考える。」「～取り組む。」「～振り返る。」等 | ☆楽しく運動をしながら心と体の変化に気付いたことや、友達と関わり合ったり、多様な動きを身に付けたりするための運動の行い方について、考えたことや見付けたことを友達に伝えている。 【思考・判断・表現 ②】（観察・学習カード） | |
| 6 振り返りをする。 | | 評価項目を表記する。 |
| 7 片付け・整理運動をする。 | ○運動で特に使ったところを意識して整理運動ができるようにする。 | |

※ 必要に応じ、学習カードや技のポイント等の掲示物を添付する。また、配慮を要する児童に対する具体的な手立て等を表記することも考えられる。